

淀川水系河川整備計画原案の概要

【河川整備の目標と施策メニュー】(計画対象期間:概ね20~30年間)

①人と川との繋がり

目標：参加型の河川整備を目指す

- ・水と人の関わりの中で培われた歴史・文化の薫る川づくり
- ・住民・住民団体、学識経験者との連携、川づくりへの住民参画
- ・情報の共有と公開の推進、等

②河川環境

目標：水辺にワンドやたまりが数多く存在し、水位の変動によって冠水・攪乱される区域が広範囲に存在し、変化に富んだ地形と固有種を含む多様な生態系が残されていた頃の河川環境を目指す。

- ・ワンドの再生、攪乱のための施設操作
- ・河川、琵琶湖、ダム湖の水質改善
- ・川以外も含む徹底した縦横断方向の連続性の確保、等

③治水・防災

目標：本支川・上下流のバランスを確保しつつ、戦後最大洪水を安全に流下させる。また、施設能力を上回る洪水が発生したときにも流域全域において被害をできるだけ軽減できるようにする

- ・本支川・上下流バランスを考えた治水対策
- ・堤防の本来機能を確実に発揮させる補強対策
- ・大洪水でも破堤しない高規格堤防整備(淀川本川)
- ・琵琶湖の後期放流対策
- ・情報伝達、避難体制整備等の危機管理体制の構築、等

④利水

目標：河川流況の回復を目指すとともに、水需給逼迫地域への対応、渇水への備えを行う

- ・水需要の抑制と水資源の有効活用
- ・水需給が逼迫している地域への必要な新規水源の確保
- ・渇水調整の円滑化と異常渇水対策容量の確保

⑤利用

目標：都市域のコミュニティー空間として、身近な自然を楽しめ、川と街の一体感が体現できるような河川整備を行う

- ・まちづくりとの連動、舟運の復活、環境学習、防災学習の場としての活用
- ・プレジャーボート等の水面利用の適正化、等

⑥維持管理

目標：適正な維持管理を行い、洪水・高潮等による災害の防止、河川の適正な利用、流水の正常な機能維持を目指す
地域住民の方々が身近な自然を楽しめ、川との繋がりを実感できる河川環境の維持を目指す

- ・河川管理施設の機能保持、等

